





■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

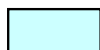
建物名称	ヤフー北九州データセンター9号棟増築工事	BEE	1	BEEランク	B+	★★★
------	----------------------	-----	---	--------	----	-----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.7 /5		ふつう 
2 地球温暖化対策の推進	##### /5		#DIV/0!
3 豊かな自然環境の確保	2.0 /5		がんばろう 
4 高齢社会への対応	##### /5		#DIV/0!
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上	
		ふつう 3 点以上	
		がんばろう 3 点未満	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル:	CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト:	CASBEE-BD_NC_2016(v.4.01)
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.7	
リサイクルに関する配慮		長寿命化に関する配慮	
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3.3	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 3
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 4.8
<自由記述>		<自由記述>	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 #DIV/0!	
省エネ・省資源に関する配慮		節水に関する配慮	
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア	LR2/ 1.1 節水	スコア
<自由記述>		<自由記述>	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 2.0	
生態系保全に関する配慮		緑化に関する配慮	
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 2
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 3
<自由記述>		<自由記述>	
4 高齢社会への対応		スコア平均 #DIV/0!	
バリアフリーに関する配慮		主な指標	
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア	建物の外皮性能 (BPI評価)	
<自由記述>		非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級	
		建物的一次エネルギー消費量 (BEI評価)	
		非住宅:BEI値、住宅: -	
		外構緑化指数	
		建物緑化指数	



:入力欄

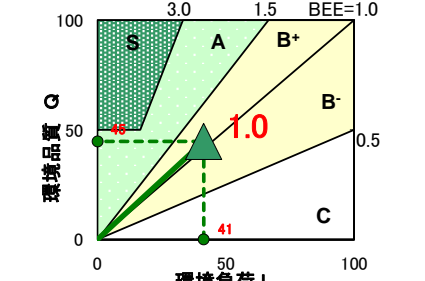
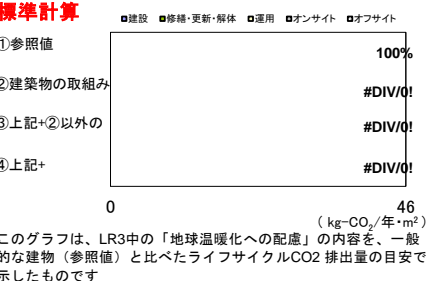
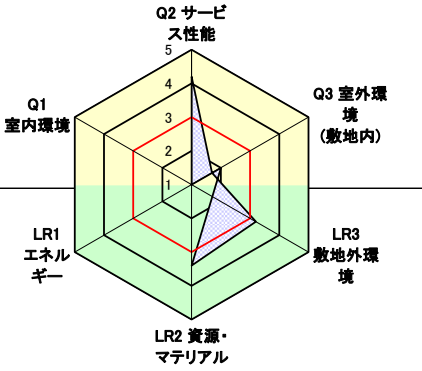


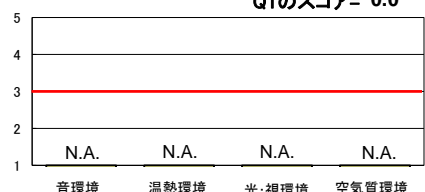
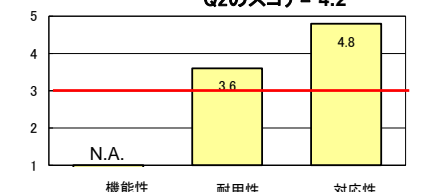
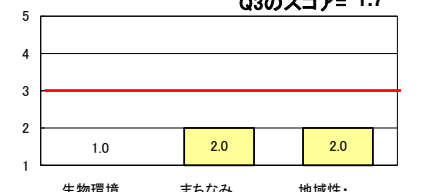
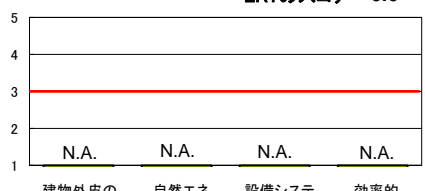
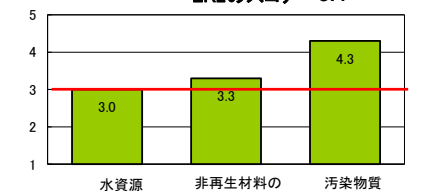
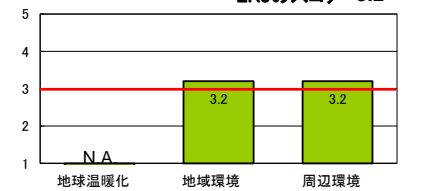
:CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要			1-2 外観
建物名称	ヤフー北九州データセンター9号棟	階数	地上2F
建設地	福岡県北九州市	構造	S造
用途地域	工業専用地域、防火地域指定なし	平均居住人員	0 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年5月 予定	評価の実施日	2022年4月26日
敷地面積	66,099 m ²	作成者	最夏
建築面積	6,684 m ²	確認日	202●年●月●日
延床面積	12,275 m ²	確認者	〇〇〇

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.0</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p> 	<p>標準計算</p> <p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> 	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 0.0</p>  <p>音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境</p> <p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 4.2</p>  <p>機能性 耐用性 対応性</p> <p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 1.7</p>  <p>生物環境 まちなみ 地域性・</p>	<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 0.0</p>  <p>建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的</p> <p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.4</p>  <p>水資源 非再生材料の 汚染物質</p> <p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.2</p>  <p>地球温暖化 地域環境 周辺環境</p>	<p>Q のスコア= 2.7</p> <p>LR のスコア= 3.3</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>計画地の特性を活かし、PUEの低減を目指し、ラック数の多く確保できる計画とする。</p>		その他
<p>Q1 室内環境</p> <p>メンテナンス作業に対する照度環境を確保した計画。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>将来の余剰スペースを確保したゆとりのある平面断面計画。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>既存建物と調和する色彩や材料を採用。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>外気高度利用による徹底したエネルギー消費削減</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>N2ガス消火を採用し、汚染物質含有材料の使用を回避した計画</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>燃焼機器を一切使用せず、大気汚染へ配慮した計画</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
ヤフー北九州データセンター9号棟 増築工事

 ■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								2.7
Q1 室内環境								
1 音環境				-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル				-	-	-	-	-
1.2 遮音				-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	-	-	-
1.3 吸音				-	-	-	-	-
2 温熱環境				-	-	-	-	-
2.1 室温制御				-	-	-	-	-
1 室温				-	-	-	-	-
2 外皮性能		記入例: エアフローウィンドウの採用		-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-	-
2.2 湿度制御				-	-	3.0	-	-
2.3 空調方式				-	-	-	-	-
3 光・視環境				-	-	-	-	-
3.1 昼光利用				-	-	-	-	-
1 昼光率				-	-	-	-	-
2 方位別開口				-	-	3.0	-	-
3 昼光利用設備				-	-	3.0	-	-
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-
1 昼光制御				-	-	3.0	-	-
3.3 照度				-	-	3.0	-	-
3.4 照明制御				-	-	3.0	-	-
4 空気質環境				-	-	-	-	-
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-
1 化学汚染物質				-	-	3.0	-	-
4.2 換気				-	-	-	-	-
1 換気量				-	-	3.0	-	-
2 自然換気性能				-	-	3.0	-	-
3 取り入れ外気への配慮				-	-	3.0	-	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-	-
2 喫煙の制御				-	-	-	-	-
Q2 サービス性能				-	0.43	-	-	4.2
1 機能性				-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-	-
1 広さ・収納性				-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画				-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	-
1 広さ感・景観				-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	-
3 内装計画				-	-	1.0	-	-
1.3 維持管理				-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計				-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性				3.6	0.50	-	-	3.6
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.8	0.50	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する。		4.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上材の補修必要間隔		30年以上		5.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		20年以上		5.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		冷水配管は配管用炭素鋼鋼管(白)を使用		#####	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性				4.2	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備		地震時に機能停止しない。災害時は負荷容量を下げた運転可能。		4.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備		給水配管の系統を分ける。受水槽は二基を分離して配置。		3.0	0.20	-	-	-
3 電気設備		無停電電源設備を設置		5.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法		耐震クラスS		5.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備		2ルートからの引き込み。		4.0	0.20	-	-	-

3	対応性・更新性			4.8	0.50	-	-	4.8	
	3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-		
		1	階高のゆとり	階高5.0m	5.0	0.60	3.0	-	
		2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.097	5.0	0.40	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり		床耐荷重4500N/m2以上	5.0	0.30	3.0	-		
	3.3 設備の更新性			4.6	0.40	-	-		
	1	空調配管の更新性	構造材・仕上げ材を痛めず更新・修繕可能	4.0	0.20	-	-		
	2	給排水管の更新性	構造材・仕上げ材を痛めず更新・修繕可能	5.0	0.20	-	-		
	3	電気配線の更新性	構造材・仕上げ材を痛めず更新・修繕可能	5.0	0.10	-	-		
	4	通信配線の更新性	構造材・仕上げ材を痛めず更新・修繕可能	5.0	0.10	-	-		
	5	設備機器の更新性	構造材・仕上げ材を痛めず更新・修繕可能	5.0	0.20	-	-		
	6	バックアップスペースの確保	将来対応スペース、バックアップスペースの確保	4.0	0.20	-	-		
	Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	1.7	
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0		
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0		
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0		
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-			
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.3		
LR1 エネルギー			-	-	-	-	-		
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	-		
2 自然エネルギー利用			-	-	-	-	-		
3 設備システムの高効率化			-	-	-	-	-		
4 効率的運用			-	-	-	-	-		
集合住宅以外の評価			-	-	-	-			
4.1 モニタリング			-	-	-	-			
4.2 運用管理体制			年間エネルギー消費量の目標値を設定	-	-	-			
集合住宅の評価			-	-	-	-			
4.1 モニタリング			-	3.0	-	-			
4.2 運用管理体制			-	3.0	-	-			
LR2 資源・マテリアル			-	0.50	-	-	3.4		
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0		
1.1 節水			-	-	-	-			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	1.00	-	-			
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-			
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-			
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.60	-	-	3.3		
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.11	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.22	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			高炉セメント:杭に使用	5.0	0.22	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			-	1.0	0.22	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			-	5.0	0.22	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	-	4.3		
3.1 有害物質を含まない材料の使用			-	5.0	0.30	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避			-	4.0	0.70	-	-		
1 消火剤			N2消火と使用している。	4.0	0.33	-	-		
2 発泡剤(断熱材等)			-	5.0	0.33	-	-		
3 冷媒			R32冷媒の空冷チラーを使用する。	3.0	0.33	-	-		
LR3 敷地外環境			-	0.50	-	-	3.2		
1 地球温暖化への配慮			-	-	-	-	-		
2 地域環境への配慮			-	3.2	0.50	-	-		
2.1 大気汚染防止			-	5.0	0.25	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			-	2.0	0.25	-	-		
1 雨水排水負荷低減			-	-	-	-	-		
2 汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.33	-	-		
3 交通負荷抑制			-	2.0	0.33	-	-		
4 廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.33	-	-		
3 周辺環境への配慮			-	3.2	0.50	-	-		
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			-	3.0	0.40	-	-		
1 騒音			-	3.0	1.00	-	-		
2 振動			-	-	-	-	-		
3 悪臭			-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			-	3.0	0.40	-	-		
1 風害の抑制			-	-	-	-	-		
2 砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-		
3 日照障害の抑制			-	3.0	1.00	-	-		
3.3 光害の抑制			-	4.0	0.20	-	-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			広告物を設置しない	4.0	0.70	-	-		
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			ガラスなど、高反射の材料の不使用	4.0	0.30	-	-		